

つなげる力を、明日のために。トークネットのコミュニケーションマガジン「ジョイント」

# Joint

vol. **10**

表紙 “希望をつなぐ”

未来への挑戦 [特集インタビュー]

## 「文化をつなぐ」

新潟から世界へ発信する劇場専属舞踊団のパイオニア  
りゅーとぴあ舞踊部門芸術監督 / Noism 芸術監督 金森 穰氏

伝統をつなぐ

暮らしに根ざした和の美

現代の感性を加え新たな伝統を紡ぐ

越後正藍染め・半纏 紺仁染織工房

導入事例◎ [新たな価値をつくるビジネス]

通信手段を二重化することでより安全で効率的な映像伝送を実現

NHK 仙台放送局様





(写真右) 築130年を超える紺仁の家屋。2階の北側には窓がしつらえてあります。北窓は、直接太陽の光が入らないため、一日中光量や照度が安定しており、昔から染め上がりの色を確認しています。

(写真上) 菊や鳶など様々な図柄が彫られた型紙。柿渋を塗って補強した和紙を用い、180年以上前の伊勢型紙から彫り起こしています。

14

13

11

09

07

03

# Joint

CONTENTS vol.10 2015 March



Noism 新作公演の指導をする金森 稯氏。

未来への挑戦「特集インタビュー」  
「文化をつなぐ」

新潟から世界へ発信する劇場専属舞踊団のパイオニア  
りゅうとぴあ舞踊部門芸術監督  
Noism 芸術監督 金森 稯氏

伝統をつなぐ

暮らしに根ざした和の美

現代の感性を加え新たな伝統を紡ぐ

越後正藍染め・半纏 紺仁染織工房

地域ナビ

知りたい、伝えたい！地元の魅力  
東京編

導入事例

「新たな価値をつくるビジネス」  
通信手段を二重化することで  
より安全で効率的な映像伝送を実現  
NHK仙台放送局様

地域の旬情報 Joint's TOPICS

感謝の心を届け、人と人をつなぎ続ける「おのくん」

お客さま紹介

能代運輸株式会社様

サービス紹介

「V・CUBE」導入支援キャンペーン

読者プレゼント



**日本初の  
劇場専属舞踊団**

金森穰さんと新潟市民芸術文化会館(以下りゅーとぴあ)との出会いは2003年。海外の舞踊団で活躍し帰国した金森さんが、りゅーとぴあ製作の市民ミュージカルにゲスト出演したことが縁で、舞踊部門の芸術監督就任の打診を受けました。

「最初、東京での活動をベースにして、舞踊に関するアドバイザーとしての役割を求められました」

しかし、金森さんは単に劇場の「顔」ではなく、劇場専属舞踊団を作り新潟を拠点に活動することを提案したのです。

「ヨーロッパでは、劇場のある大都市に芸術監督が住み、専属の舞踊家やスタッフが雇用され、劇場から地域独自の文化が発信されます。日本の劇場もそうあるべきと思っていました」

金森さんが目指すのは、劇場文化を成熟させること。それを新潟から発信することでした。

「日本の地方には、素晴らしい文化施設がたくさんあるのに、多くは市民活動に利用するだけ、あるいは東京から買ってきた作

品を上演するだけの施設になっています。もちろん市民へのサービスも必要ですが、劇場から文化を発信し創造するには、それだけではダメなんです」

プロの舞踊家を雇用して劇場専属舞踊団を立ち上げる。前例のないことを行政が受け入れるのは難しく、理解してもらうのは容易ではなかったはず。

「理解というよりは、もっと直感的なことだと思っんです。そもそも舞踊芸術自体を理解することが難しい。こちらも必死で訴えましたから、想いや熱意を汲み取ってくれたのだと思います。当時の『りゅーとぴあ』の事業課長が市長に直談判してくれて発足が決まったんです」

**地方で続けることの意味**

2004年、新潟市に日本初の劇場専属舞踊団「Noism」が発足。金森さんにとっては、まさにここから奮闘の日々でした。

「舞踊家たちに給料を払うための予算交渉、スタジオを優先的に利用できるようにするための交渉、更衣室の確保…などすべて交渉することからスタートです。そのためには、どう説明すれば伝わるか、言葉の選

劇場専属舞踊団を作り  
新潟を拠点に活動することを提案。



③劇場の客席は大きな勾配により視界が良く、舞台との距離が近く感じられます。



①りゅーとぴあ能楽堂。Noismは2006年に「能楽堂公演」を行いました。  
②ロビーに設けられた「Noismコーナー」。作品のDVDが流れている他、メンバーの写真や資料が展示。



新潟から世界へ発信する

「NHKバレエの饗宴2015」(3月28日)で上演予定のNoism1による新作「supernova」の稽古風景。

## 劇場専属舞踊団のパイオニア

「りゅーとぴあ 新潟市民芸術文化会館」に日本初のレジデンシャル・ダンスカンパニー(劇場専属舞踊団)として、2004年に誕生した「Noism」。昨年10年の節目を迎え、いま新たな一歩を踏み出したプロ集団を率いる芸術監督・金森穰さんが、地域に劇場文化を根付かせる意義を熱く語ってくれました。

「文化をつなぐ」

りゅーとぴあ舞踊部門芸術監督/Noism芸術監督 **金森 穰氏** (かなもり じょう)

**[プロフィール]**

ルードラ・ベジャール・ローザンヌにて、モーリス・ベジャールらに師事。ネザール・ダンス・シアターII、リヨン・オペラ座バレエ、ヨーテポリ・バレエを経て2002年帰国。2003年、セルフ・プロデュース公演「no・mad・ic project~7 fragments in memory」で朝日舞台芸術賞を受賞、2004年、りゅーとぴあ舞踊部門芸術監督に就任しNoismを立ち上げる。2007年度芸術選奨文部科学大臣賞、2008年度新潟日報文化賞受賞。2014年、新潟市文化創造アドバイザーに就任。

**Noism(ノイズム)**

りゅーとぴあ 新潟市民芸術文化会館  
新潟県新潟市中央区一番堀通町3-2  
TEL.025-224-7000 <http://www.noism.jp>





インタビューから考える  
つなぐ思い



TOHKnet 新潟社 佐藤 貴司

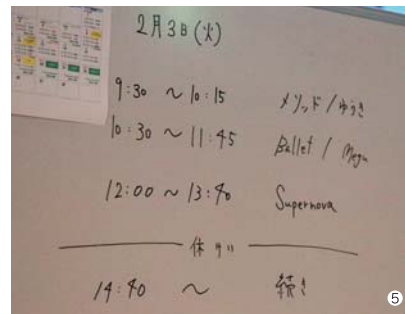
妥協しないメンタリティーの  
強さを学びたい

公演の練習を拝見して、金森さんの明確な創造力を、一つ一つ積み上げていくための、Noismの強い組織体系が見えた気がしました。

また、Noismが発足するまでの経緯の中で、人とのつながりのお話がありましたが、理屈ではなく、熱意や真剣さを相手に伝えること、そのための強い意志と人間力が大切なんだと改めて実感しました。

公私を通し、多くの方々とお会いする機会がありますが、特に金森さんには、決して自分に妥協をしない強いメンタリティーと人間力に、とても魅力を感じました。

Noismの舞台を観に行き、新たな自分自身の発見につなげていきたいと思えます。



② 納得のいく作品に仕上げるため演出に熱が入る金森さん。心にゆとりが持てるように、仕事をためないことがリラクソスの秘訣だそうです。  
③ Noism副芸術監督の井関佐和子さんは、日本を代表する舞踊家の一人。  
④ 若手舞踊家の成長は金森さんが期待を寄せるところ。  
⑤ 午前中トレーニング、午後から公演に向けての稽古というのがNoismの1日。これにより観客を非日常へ導く身体が作られます。



① Noism1「ASU~不可視への献身」第1部「Training Piece」撮影：篠山紀信

舞踊家たちの身体が表現する世界を鑑賞できる非日常的な空間。

方や行政のものの考え方についても勉強しましたね」

そして何より、劇場専用舞踊団の存在意義を、活動を通して立証していかねばなりません。給料を保障し、稽古場の環境を整えてもらったからには、それに見合った仕事ができる舞踊家が必要です。オーディションで選ばれた舞踊家たちは、金森さんと同様に新潟に住み、日々トレーニングを積み重ね、Noismとしての活動の成果をステージで披露してきました。ヨーロッパから帰国した時のことを金森さんは振り返ります。

「東京で作品を創りながら、日本の舞踊家たちのレベルの低さに驚きました。圧倒的にトレーニング量が足りないんです。東京では、専用のスタジオで時間を気にせず稽古できる環境は少ない。でも地方なら、劇場専用となることで生活も保障され、稽古に集中できる場所を確保できます」

舞踊家の身体が見せる  
非日常性

昨年、Noismは設立10周年を迎えました。現在はプロフェッショナルカンパニーの「Noism1」と、研修生カ

ンパニー「Noism2」で構成されています。2014年6月に発表された10周年記念作品、劇的舞踊『カルメン』は大きな反響を呼びました。

そして活動11年目のシーズン幕開けを飾った公演は『ASU~不可視への献身』第1部「Training Piece」は、カンパニー独自のトレーニング法とその理論を作品化、Noismのトレーニング法は、かねてより公開を求めた声が多く、10年の節目を機に作品としてアレンジされました。第2部「ASU」はアジアの中央、アルタイ共和国に伝わる「カイ（喉歌）」という歌唱法による音楽を用いて創作された作品。金森さんは「ある種のトランス状態で、音楽に身をゆだねた民族的、野性的な振り付け」と表現します。

「作品を観た時のとらえ方は人それぞれ良いんです。その人の置かれている状況や生き方によって違いますから。トレーニングによって鍛え抜かれた、舞踊家たちの身体が表現する世界を鑑賞することができる。そんな非日常的な空間が劇場であり、劇場文化に触れることで自分自身の新たな気

づきにつなげてもらえれば」

だからこそ、舞踊家への要求も高くなり、「若いメンバーにはもっと能動的に動けるようになってほしい」と期待を寄せます。作品の世界観を形にする衣裳や美術のクリエイターに関しては「自分がリスpektできる相手と仕事をする」と金森さん。それぞれ良い意味で刺激し合うことで、プラスアルファのものが生まれると話します。

劇場文化の  
在り方について

この10年、金森さんが思い続けてきたのは、他の自治体にも劇場

専用舞踊団が誕生すること。

「残念ながらまだできていない。各地の劇場が専用集団の活動を通して刺激し合い、相対化することによって劇場文化が成熟していくと思うんです。5年後の東京オリンピックに向けて、さまざまな文化プログラムが実施されますが、このタイミングで何か起こることに期待したいですね」文化庁の「2020年に向けた文化イベント等の在り方検討会」委員の他、さまざまな場で発言の機会がある金森さん。劇場専用舞踊団のバイオニアとして、劇場文化の在り方をこれからも発信し続けます。



伝統を  
つなぐ

暮らしに根ざした和の美  
現代の感性を加え新たな伝統を紡ぐ

越後正藍染め・半纏 紺仁染織工房 (こんにせんしよくこうぼう)

新潟県小千谷市

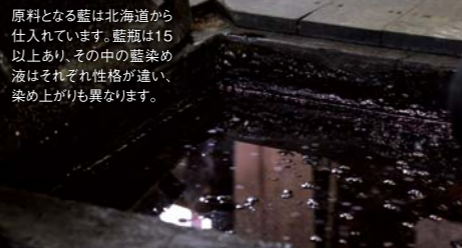


紺仁の神髄といえる  
越後正藍染め

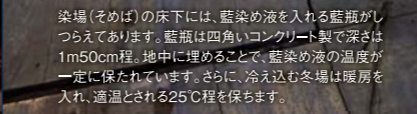
江戸時代後期の宝暦元年(1751年)に創業した紺仁。初代・松井仁助が藍染めを始めて以来、260余年にわたり染め物屋として暖簾を守り続けてきました。新潟の中でも雪深い越後地域は、厳しい自然条件のため元々藍染めには適していません。しかし、工夫を重ね独自の染色方法を生み出

創意工夫を加え  
伝統を次世代へつなぐ

紺仁は、「染め」だけでなく「織り」を手掛けていることでも知られ、片貝木綿はその代表格。手仕事から作られた日用品の美しさ「用の美」の価値を賞賛し、民芸運動を起した柳宗悦(やなぎむねよし)の甥と松井さんの父である10代目が協力して創り出した織り物です。「伝統を守り続けるには、何代



原料となる藍は北海道から仕入れていきます。藍瓶は15以上あり、その中の藍染め液はそれぞれ性格が違い、染め上がりも異なります。



染場(そめば)の床下には、藍染め液を入れる藍瓶がしつらえてあります。藍瓶は四角いコンクリート製で深さは1m50cm程。地中に埋めることで、藍染め液の温度が一定に保たれています。さらに、冷え込む冬場は暖房を入れ、適温とされる25℃程を保ちます。



糊置きの様子。糊は地色を入れたくない部分に置きます。餅米などから作られ粘着力があるため、均一に、しかも型紙の継ぎ目が分からないように塗ることは大変難しいそうです。

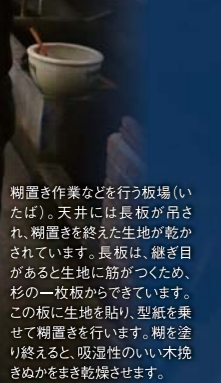


11代目当主 松井均さん

「最上のものを作っていると自負しています」

藍染め液はタデ科の藍という植物の葉から作られますが、液の中にはバクテリアが生きており、毎日面倒を見なければなりません。「バクテリアが活発になるのは25℃ぐらい。舌でなめれば藍の調子が分かります。元気がないと思えば、お酒や小麦粉を練ったものを入れて、バクテリアを活性化させます」と松井さん。常に藍が良い状態であるよう、一日の休みもなく藍の管理に神経を使います。

し、黒ずんだ力強い藍色が特徴の越後正藍染めを完成させました。この藍色をジャパンブルーと称する11代目当主・松井均さん。「藍は紺仁が一番守るべきもの。藍染めは庶民の染め物であり、昔は藍染めを生業とする紺屋が全国にありましたが、今では県内でも2軒になりました」。藍染めの技法を守り続ける紺仁は、全国的にも貴重な存在です。



糊置き作業などを行う板場(いたば)。天井には長板が吊され、糊置きを終えた生地が乾かされています。長板は、継ぎ目があると生地に筋がつくため、杉の一枚板からできています。この板に生地を貼り、型紙を乗せて糊置きを行います。糊を塗り終えたと、吸湿性のいい木挽きぬかをまき乾燥させます。

現在、長男の佑介さんと次男の慶介さんが工房で働いています。広報活動のため、佑介さんが紺仁のホームページを開発。ものにこだわりを持つ若い世代やシニアの方々から半纏の注文が相次いでいるそうです。「昔ながらの手業の良さが半纏に出ています。ホームページを介して、直接お客さまの声を聞くモチベーションも上がります。昔からの技法を守り絶やさず、新たな技術も追求したい」と話します。紺仁に伝えられてきたものづくりの精神は、次世代に受け継がれています。

にもわたって伝承されてきた技を体得するだけでなく、時代のニーズをとらえ、お客さまの求めるものを創意工夫して作り続けなければなりません。祖父や父の仕事を見て、その精神を受け継いでいます。呉服だけでなく、シャツをはじめとする洋装、フアッション小物やインテリア雑貨など、和装以外のものも幅広く手掛けてきました。



型紙の柄は、ほとんどが180年以上前に作られたもの。昔の柄を保存しておき、型紙は彫り直しながら使用しています。



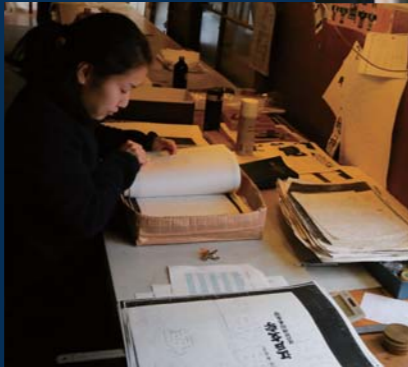
糊置きし、伸子(しんし)張りした生地を染める地染めの様子。室内を空調で暖め、常に除湿しています。



半纏の衿文字などもすべて手書きで下書きを行います。書体は江戸文字や寄席文字など、好みの書体を選ぶことができます。



半纏の下絵に取り組み慶介さん。龍や鳳凰など、絵柄のデザインもお客さまの要望に応じて描きます。



長男の佑介さん(左)と次男の慶介さん(右)。「お客さまの声、時代の変化。常にアンテナを立てておくことが大切です」と佑介さん。



デザインから染め、織り、仕立てまで一貫して手掛ける半纏。自分だけの一着を仕上げることもできます。県内はもちろん、関東や関西の祭り用に、大工や産など職人さんの仕事用に、様々な用途のオーダーが全国各地から入るそうです。


 こんに  
**有限会社 紺仁**  
 新潟県小千谷市片貝町4935  
 TEL.0258-84-2016  
 E-mail:konni@echigo.ne.jp  
 URL:http://konni-aizome.com



# 東京にある東北と新潟のアンテナショップをご紹介します！

## 秋田 あきた美彩館

2010年、五感で秋田の旬を味わえるアンテナショップとして、リニューアルした「あきた美彩館」。いぶりがっこ、しょっつるなど秋田の食文化を代表する定番品はもちろん、話題のお菓子や銘酒、民芸品など1,000アイテム以上の県産品を取り揃えています。店の奥には秋田料理を楽しめるダイニングも併設。毎月第2土曜日は、秋田の生鮮食材が産地直送で販売されるマルシェを開催しています。



■住所/東京都港区高輪 4-10-8 ウイング高輪 WEST-III 階  
■電話/03-5447-1010 ■営業時間/11:00~23:00 ■定休日/元旦  
<http://www.akita-bisaikan.jp>

## 宮城 宮城ふるさとプラザ (コ・コ・みやぎ)

池袋で地域密着型の店舗展開をしている「宮城ふるさとプラザ」。池袋駅から徒歩約2分という立地の良さもあり、リピーターが多いのが特徴です。笹かまぼこや、ずんだ餅などの定番品をはじめ、こけしなどの伝統工芸品の展示販売コーナーもあります。県内企業による新商品のテスト販売や、週替わりで県内市町村の生産者らと触れ合えるイベント販売なども開催。店内には地元でも人気の牛たん焼の店が飲食コーナーとして併設されています。



■住所/東京都豊島区東池袋 1-2-2 東池ビル1・2階  
■電話/03-5956-3511 ■営業時間/11:00~20:00 ■定休日/年末年始  
<http://cocomiyagi.jp>

## 山形 おいしい山形プラザ

自然に恵まれた食材の宝庫、山形の「おいしい!」をいろいろ取り揃えたショップ「おいしい山形プラザ」。特産品展示販売コーナーには、そばや果物、漬け物など定番の味はもちろん、ふだんは地元でしか味わえない隠れた名品も並びます。また、飲食コーナーには、庄内地方の人気レストランのシェフがプロデュースするお店が併設され、山形の旬の食材をふんだんに使った多彩なメニューを用意。数々のおいしい料理で迎えてくれます。



■住所/東京都中央区銀座 1-5-10 銀座ファーストファイブビル1・2階  
■電話/03-5250-1750 ■営業時間/10:00~20:00 ■定休日/年末年始  
<http://oishii-yamagata.jp>

## 新潟 表参道・新潟館ネスペース

1997年にオープンし、現在は「食」を中心とした県産品の販売や観光情報などを発信している「表参道・新潟館ネスペース」。物産販売店舗では、米や海産物、地酒、米菓など郷土の味が充実。新潟のコシヒカリを使ったおにぎりや生鮮野菜も並びます。館内には、新潟の食材にこだわったレストランが2軒あり、郷土料理のほか新潟の食材を使用した料理の数々が楽しめます。週替わりで地元自治体や生産者によるイベントも開催。



■住所/東京都渋谷区神宮前 4-11-7  
■電話/03-5771-7711 ■営業時間/10:30~19:30  
■定休日/無休 <http://www.nico.or.jp/nospace/>

## 福島 日本橋ふくしま館 MIDETTE

「ふくしまの今」を伝える情報発信基地として、2014年にオープンしたばかりの「日本橋ふくしま館 MIDETTE」。浜通り・中通り・会津の各エリアの農産物や工芸品などを、幅広く取り揃えています。特に、お酒の品揃えが充実しており、店内には地酒を味わえる立ち飲み式のカウンターも設置。3種類の地酒が楽しめる「飲み比べセット」が人気です。そばや和菓子などの実演・販売もあるので、タイミングが合えばでき立てが召し上がれます。



■住所/東京都中央区日本橋町 4-3-16 柳屋大洋ビル1階  
■電話/03-6262-3977 ■営業時間/平日11:00~20:00、土日祝日11:00~18:00  
■定休日/年末年始 <http://midette.com>

## vol.10 東京編

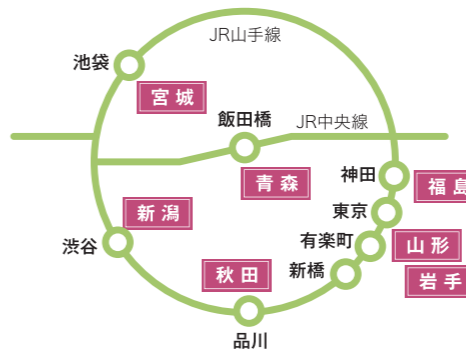
# 地元の魅力

「地域ナビ」

知りたい、伝えたい!



東京支社の最寄り駅、新橋駅前のSL広場。



TOHKnet 東京支社  
佐々木 啓太

青森県八戸市出身。東京支社勤務4年目。「住んでいる上野は、動物園や博物館、アメ横、アジア系の店などが混雑してとてもおもしろい街です」



**アンテナショップで地元の魅力を再発見**

東京には全国各県のアンテナショップが多く、いつでもふるさとの味を楽しめます。地元は青森ですが、離れて10年以上経つと、ふるさとの味を改めて実感することが多いです。特にイカの塩辛が懐かしくなり、時々アンテナショップに行くようになりました。パイで包んだリンゴのお菓子も懐かしいですし、地元産のリンゴジュースも飲みたくありません。テレビ番組で紹介され、今や全国区になった「スタミナ源たれ」は、リンゴとニンニクが入った万能調味料。田子産のニンニクはニオイが残りにくく、味も格別だと思います。また、戸越銀座商店街にはJA全農あおもりのアンテナショップがあるので、そこらもチェックです。

入社してからは本社勤務でしたが、宮城のアンテナショップで扱っているものも気になります。ずんだ系のお菓子やかまぼこなどを買っています。

東京支社がある新橋からは国会議事堂や官公庁、二重橋、銀座などに近く、いろいろ巡ってみると自分なりの楽しみを発見できる街だと思います。また、サラリーマンが多く、立ち飲み屋がたくさんあるのも、この街の特徴です。

■住所/東京都渋谷区神宮前 4-11-7  
■電話/03-5771-7711 ■営業時間/10:30~19:30  
■定休日/無休 <http://www.nico.or.jp/nospace/>

## 岩手 いわて銀河プラザ

自然豊かな環境で作られた食品や工芸品、東日本大震災後復活した商品など、定番品から新商品まで約1,800種類の「いわてブランド」が集められた「いわて銀河プラザ」。毎朝岩手から、でき立てが運ばれるというお弁当コーナーや、小岩井農場の製品が並ぶコーナーもあります。イベントコーナーも充実しており、地元岩手の団体による試食・実演販売が毎日のように開催。趣向を凝らした物産・観光 PR をしています。



■住所/東京都中央区銀座 5-15-1 南海東京ビル1階  
■電話/03-3524-8282 ■営業時間/10:30~19:00(月末は17:00まで)  
■定休日/年末年始 <http://www.iwate-ginpla.net>

## 青森 あおもり北彩館東京店

飯田橋駅近くに位置する「あおもり北彩館東京店」。東北新幹線全線開業に合わせて2010年に全館リニューアル。「ふるさとグルメ・あおもりカフェ」が新設され、リンゴジュースやオリジナルのソフトクリームがその場で味わえるようになりました。青森県内の生産者や製造者が特設店頭で販売する催事も好評です。「あおもりの味」を家庭で簡単に調理できる加工品や調味料も多数取り揃えています。



■住所/東京都千代田区富士見 2-3-11 青森県会館1階  
■電話/03-3237-8371 ■営業時間/10:00~19:30  
■定休日/12月31日 <http://www.hokusaikan.com>



NHK仙台放送局様

通信手段を二重化することで  
より安全で効率的な映像伝送を実現

課題

無線伝送のバックアップ機能を果たし、  
ハイビジョン映像の伝送量の増大に  
対応する回線を構築したい。



技術部  
企画・総合デスク(報道技術)  
**近藤 宏行様**  
(こんどう ひろゆき)

提案

生中継の映像を途切れることなく伝送できる  
「ハイビジョン映像伝送サービス」と  
「V-LAN」を提案。  
さらに、通常の撮影映像・素材を伝送する  
「おトークオフィス・ワン」を提案。



担当者/TOHKnet 営業本部  
**高橋 淳**



無線と有線を併用することで  
より安全に高品質な映像を伝送

サービス導入のきっかけは2004年度、プロ野球球団の仙台設立でした。楽天koboスタジアム宮城(当時宮城球場)からの中継や伝送が増える見込みのことです。通常、放送局の映像伝送はFPU(無線中継伝送装置)による無線伝送を実施しています。当時は、ハイビジョン放送が普及し始めた頃で伝送量が増大すると、都市部や山間部では障害物によって無線伝送に制限が生じるため、その代替案の検討が必要になりました。生中継は、無遅延で画質劣化することのないよう、非圧縮で映像を伝送することが求められ、それが可能だったのがTOHKnetと他の1社でした。



定点カメラなどの映像が伝送され、常時、モニターに映し出されます。

TOHKnetの「ハイビジョン映像伝送サービス」を採用したポイントには三つあり、一つはランニングコストが安価だったこと、二つ目は24時間体制による障害対応、三つ目はkoboスタジアムからNHK仙台を異ルート二重化で構築できること。特に三つ目の「ルートを変えて二重化すること」で、より安心感が高まりました。また、野球中継だけでなく、J1ベガルタの試合や全国規模のイベント時なども、無線伝送のバックアップとして利用しています。

また、ハイビジョン映像伝送サービスとは別に、ニュース素材の映像伝送には、帯域確保され信頼性の高い「V-LAN」とリーズナブルな「おトークオフィス・ワン」のIP伝送サービス用途に分けて利用しています。

今後は、ファイルベースでの素材伝送も始まると思うので、ファイルの高速伝送に特化したサービス展開などがあればご提案いただきたいと思います。



集めた映像を切り替えてニュースを送出する「NC車」。

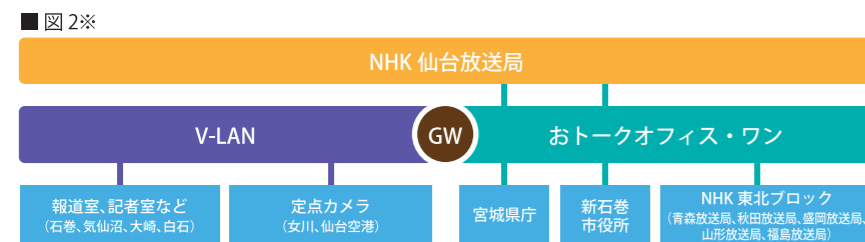
信頼度の高い「ハイビジョン映像伝送サービス」と「V-LAN」で  
環境に影響を受けやすい無線回線をバックアップ

NHK仙台放送局様にとって、お取引実績がなかったため心配されていましたが、提案内容に納得されてご採用いただきました。放送局の生中継は、特に通信回線の品質と安全性が求められます。NHK仙台放送局様には、初め、「ハイビジョン映像伝送サービス」をご提案しました。koboスタジアム宮城からNHK仙台間は2回線使用する予定でしたが、ここを異ルート二重化で構築する提案を評価していただきました。また、ハイビジョン映像伝送サービスとは別に、ニュース素材伝送用に帯域確保され信頼性の高い「V-LAN」を提案し、回線帯域が安定していることを評価し採用していただきました。

このことでしたが、弊社は電力系の会社ということもあり、電気と一緒に弊社の回線も工事する場合が多いので早期復旧が期待できます。近い将来、ファイルベースでの映像素材伝送が始まるのお話ですが、お客さまのニーズに応じたご提案ができるよう努めていきたいと考えています。

その後、ベストエフォート型で低コストのサービス「おトークオフィス・ワン」がスタートしたことで、こちらも併用してご利用いただいております。フレキシブルに回線構成でき、再送で利用可能な映像素材の伝送にご利用いただくことで、よりコストダウンにつながります。どちらも弊社ネットワークセンターにおいて、24時間365日の保守体制で障害対応しています。また、ネットワークセンターを、実際に見学していただいたことも安心につながったと伺いました。東日本大震災の時、NHK仙台放送局様の回線は切れなかったと

無線伝送を補完しコスト削減につながる  
「V-LAN」と「おトークオフィス・ワン」



※光ファイバー網の広さや、品質・費用対効果の良さに定評がある「V-LAN」と、低コストでネットワークを構築できる「おトークオフィス・ワン」。ゲートウェイを利用して二つのサービスを接続し、NHK仙台放送局様は映像伝送の安全性が最優先となる生中継に使う回線は「V-LAN」を、再送可能な素材伝送は「おトークオフィス・ワン」をご利用になり、コストダウンを図られています。

提案のPOINT

生中継現場と放送局間を  
異ルート二重化で構築

24時間365日の保守体制で  
障害対応

ランニングコスト削減と  
業務効率化を実現

Introduce \* NHK仙台放送局



NHK仙台放送局  
宮城県仙台市青葉区錦町1-11-1  
TEL. 022-211-1001(代表) http://www.nhk.or.jp/sendai/

東北6県を管轄するNHK東北ブロックの拠点局

昭和3年6月に開局した仙台放送局。全国の話に加え、主に宮城県内のニュースや番組の取材・制作を行い、テレビ、ラジオの放送を実施しています。また、東北6県を管轄する拠点局として、東北の情報を東北6県向けに情報を発信しています。主な制作番組は、『てれまさむね』(総合/平日18:10~)、『ひるはび』(総合/平日11:30~)、『ゴジだっちゃ!』(ラジオ第1/平日17:00~)など。今年夏には、宮城発地域ドラマ『独眼竜花嫁道中』を放送(BSプレミアム)する予定です。



NHK仙台放送局のスタジオ

※文中に記載の組織名・所属・役職・サービス名などはすべて2015年1月時点のものです。



フィキューブ  
**V-CUBE**  
ミーティング  
ドキュメント

# Web会議サービスV-CUBEの導入で、コスト削減や業務効率化を実現!

TOHKnetが提供するクラウドサービスブランドです。

PC&タブレット端末から、いつでも、どこでも、誰でも使えます。

》V-CUBEはWeb会議だけでなく、あらゆる業種の様々なシーンでご活用いただけます。

**建設業**

本社からの指示や現場からの報告が的確でタイムリーに実施可能。

**流通業**

本部と地方支社・支店との情報格差を一気に解消。

**医療・福祉**

施設入居者の家族と気軽にWeb面会ができる。

- V-CUBEの特徴**
- ・タブレットやスマートフォンがあれば、外出先、出張先、どこからでも会議に参加できます。
  - ・招待メール機能により、取引先や社外パートナー等、サービスをご契約いただいていない方でも参加が可能です。
  - ・会議資料は端末内に保存されないため、端末を紛失した場合の情報漏えいリスクを最小限におさえられます。
  - ・会議資料をタブレットで表示することにより、印刷の手間やコストを削減することができます。

**導入支援キャンペーン開催中!**

特典1 **ご成約特典として周辺機器をプレゼント!**  
 ●先着10名様に…YAMAHA卓上スピーカーマイク  
 ●期間中もれなく…推奨カメラ ヘッドセット2セットプレゼント!

特典2 **初期費用無料・月額費用2ヶ月無料!\***  
 ※1年以上ご契約いただいた場合に適用となります。ただし、無料期間を除きます。

特典充実の今がチャンス! **2015.3/31**まで!

詳しくはホームページをご覧ください   <http://www.tohknet.co.jp/cp/vcube/>

## 読者プレゼント

「JoinT」をお読みいただきましてありがとうございます。第10号は新潟県の人と技の特集、東京都の情報などをご紹介します。今後も皆さまのご意見を参考に、よりよい誌面づくりを行ってまいりますので、ぜひアンケートにご協力ください。

**アンケートにお答えいただいた方の中から、抽選で下記の賞品をプレゼントいたします。**

**A** **3名さま**

紺仁染織工場の  
テーブルマット

正藍染めテーブルマット1枚  
(69.0cm×33.5cm)

**B** **3名さま**

上北農産加工農業協同組合  
たれ・醤油の小瓶5本セット

スタミナ源たれ、ゴールド甘口、うま味たれ(各300g)、  
塩焼きのたれ(270g)、デリカフレンド(320g)

**C** **3名さま**

おのくんと  
写真絵本のセット

おのくん1体(色柄は選べませんので、予めご了承ください)、  
写真絵本「おのくんとおさんぽ 東松島へん」1冊

応募方法 下記URLより「JoinT読者プレゼント」にアクセスして、アンケートにお答えの上、ご応募ください。  
<https://www.tohknet.co.jp/joint/>

締め切り/2015年4月30日(木)

当選発表/厳正な抽選の上、賞品の発送をもって発表に代させていただきます。  
 ※応募に際していただきました個人情報につきましては、本誌プレゼントの運営および「JoinT」の編集に役立てる目的にのみ使用いたします。

編集後記 東日本大震災から4年が経ちました。岩手・宮城・福島をはじめとする被災地では、復興に向けて様々な活動や取り組みが展開されています。「地域の旬情報」でおのくんを取り上げましたが、震災を忘れず後世につないでいく「きっかけ」にさせていただけたら幸いです。



## 感謝の心を届け、人と人をつなぎ続ける「おのくん」

おのくんが誕生したのは2012年4月20日。毎日一日も休まず、お母さんたちが心を込めて作っています。左の写真は小学生が作った記念すべき第一号。

元々、「めんどくしえ」の語源には「ありがとう」という意味があったそうです。「めんどくしえ」と言いつつも、照れながら「ありがとう」という感謝の思いを込めながら、日々作られていくおのくん。これからも、感謝の心を伝える東松島の復興大使として活躍します。

国内外に広がる里親の輪 世界にたった一つのキャラクター!

色や柄、大きさや表情も一体一体違う「おのくん」。一対の靴下から作られており、宮城県東松島市の復興を願って生まれた猿のぬいぐるみ(ソックモンキー)です。おのくんは、小野駅前仮設住宅の集会所で誕生しました。みんなで作れるもの、しかも他で作ってないものを探していた時、仮設住宅に住む子どもさんへ手作りのソックモンキーが届きました。これを見て自治会長の武田文子さんが埼玉から贈り主を招き、教わりながら集会所で作り始めたそうです。最初はうまくできず「めんどくしえめんどくしえ」と言いながら縫っていたとか。だから苗字が「めんどくしえ」、名前が「おのくん」。小野駅前で作っていたからそれと、即、名前が決定しました。それから、口コミやインターネットを通じて広がり、これまでに約2万体的おのくんが国内外の「里親」の元に巣立ったそうです。



1 作り手は現在20名で、それぞれの自宅や集会所で作っています。おのくんは新品の靴下を切り抜き、ミンで縫った後、綿を詰め、耳や腕、目などのパーツを手で縫い付けて仕上げられます。一体が完成するまで2時間程かかるそうです。

元々、「めんどくしえ」の語源には「ありがとう」という意味があったそうです。「めんどくしえ」と言いつつも、照れながら「ありがとう」という感謝の思いを込めながら、日々作られていくおのくん。これからも、感謝の心を伝える東松島の復興大使として活躍します。



2 仮設住宅の自治会長であり、小野駅前プロジェクト代表の武田文子(左)と企画広報担当の新城隼(右)。1月には「おのくんとおさんぽ」と題した写真絵本を出版したほか、現在は次へのステップとして、新たな拠点を建設する「空の駅」プロジェクトを進めています。「皆さんのご協力をぜひお願いします」と武田さん。



集会所の棚で里親を待つおのくん。作り手の個性が表現され、同じ柄で作ってもどこか違う「世界に一つだけのおのくん」に仕上がります。

**小野駅前郷プロジェクト** 宮城県東松島市牛網字駅前2丁目33-1 小野駅前仮設住宅集会所  
 TEL・FAX(兼用)0225-98-8821 <http://socialimagine.wix.com/onokun>  
 ※おのくんは大きさに関係なく1体1,000円(税込)。直接、来ていただくと、すぐに購入できます。電話やFAXでも注文を受け付けていますが、お届けまで6カ月程かかります。

TOHKnetのサービスをご利用いただいているユーザー企業さまをご紹介します。

**お客さま紹介 TOHKnet user**

### 地球にやさしいクリーンな物流サービスを提供する 能代運輸様

能代運輸は1950年の創業以来、「安全最優先」をモットーに地域社会から信頼される企業、またグローバル社会に対応できる総合物流企業を目指して幅広く事業を展開してきました。

地球環境との共生のため、地元の社有林を育成・維持することで自然環境の保全に努めており、秋田杉をはじめとする原木の伐採・集材、搬出運搬を行うほか、全国の木材関係者に向けてタイムリーな原木情報を発信し、国産材の循環物流を目指しています。

2014年10月、秋田県危険物安全協会連合会会長表彰を本社ときまみち営業所が受賞しました。今後も定期点検や法規講習などを継続し、保安管理の徹底を図ります。

① 創業以来JR貨物を取り扱っており、自社便によるリレー配送と全国ネットワークにより、モーダルシフト推進化に努めています。

② 付加価値の高い複合一貫輸送サービスの提供を目指しており、港湾物流では荷役～保管～配送までシームレスに担います。

※貨物や人の輸送手段の転換を図り、CO<sub>2</sub>排出の削減を推進すること。

能代運輸株式会社(本社) 秋田県能代市河戸川字北西山144番地の2 TEL.0185-55-1222 <http://www.noshirounyu.co.jp/index.html>



## TOHKnetの事業所と社員を紹介します。

### ユーザサポートセンター



〒984-0052  
仙台市若林区連坊2丁目4-40  
TEL.022-799-4280

### お客様のニーズに柔軟に対応いたします！

ユーザサポートセンター(以下USC)は、よりお客様のニーズに対応できる体制を強化するため、平成23年3月1日に発足。最初は、お客様が仕事を効率的に行うための、コスト削減と装置設置のメリットをご提案することからスタートしました。お客様拠点に設置したルーターなどのレンタル機器やIP電話端末設備、クラウド系サービスのためのサーバ設備などの構築、保守を一元的に行う部署で、設備の構築から運営・維持管理までを一貫して担います。出張も多く、エリアは東北6県と新潟県に加え、北海道から関東、関西とおお客様の事業所や拠点など広域にわたります。

営業本部に所属するUSCは、営業サポートの役割を持ち、技術本部のネットワークセンターやメンテナンスセンターと連携しながら業務に当たります。そのため、同じ敷地内にサポート体制が整備されており、万が一障害が発生した時も、ワンストップでおお客様の状況に応じ、迅速に対応しております。

現在、USCには所長、副所長を含めてネットワーク担当、サーバ担当など、総勢16名の社員が働いています。中途入社も多く、異業種やシステム関係などの経験者がおり、所内は個性的で活気にあふれ、仕事にも活かされているようです。事業所がある連坊は、榴岡公園や寺院が近くにあり、春は桜を愛でながら通勤できる静かな環境にあります。



〔表紙の写真〕

春は桜の開花や気温の上昇とともに外に出かけたくなる季節です。仙台の桜の名所として知られる榴岡公園は、シダレザクラをはじめ、ソメイヨシノ、ヤエザクラなど400本近くが植えられています。身近で春を感じさせる隠れた名所を探してみてください。

「JoinT」バックナンバーは HP でご覧いただけます。

<http://www.tohknet.co.jp/joint/>

### ある日のユーザサポートセンターを紹介！



① 機械室でサーバのシステムがきちんと稼働しているか確認。万全を期して複数人で作業します。

② IP電話設定。お客様と同じ環境を作り、通話が可能か確認します。

③ セキュリティ万全の仙台中央データセンター。入室カードの発行登録を行います。

④ データセンターでサーバやスイッチを設置するための準備をしています。

⑤ USC発足当日について語る佐々木誠旗課長。

⑥ CPE※(ルーター等) 設定の様子。障害時は交換用機器への設定をします。

※CPE (Customer Premises Equipment : 顧客宅内装置)

トークネット  
**TOHKnet**  
つなげる力を、明日のために。

【お問い合わせ】

TEL:022-799-4211

(受付時間/平日 9:00~17:00)

e-mail: joint@tohknet.co.jp